

琵琶湖の要・坂本城

中井 均 (NPO 法人 城郭遺産による街づくり協議会理事長)

◆はじめに

- ・志賀の陣の勃発と志賀郡 ⇒ 永禄 13 年(1570)3 月 20 日「今度、今道北(山中越)・ワラ坂南(逢坂越)、此ノ二道ヲトメテ、信長ノ内、森ノ山(三)左衛門用害ヲ築キ、此ノフモトニ新路ヲコシラエ、是へ上下ヲトオス」(『多聞院日記』)
- 用害 ⇒ 宇佐山城【近江における信長最初の石垣城郭】※但し瓦は出土しない

◆宇佐山城から坂本城へ

- ・志賀の陣終了に伴う新城の築城 ⇒ 志賀郡支配の拠点的城郭として明智光秀による築城
- ・琵琶湖岸に築かれた水陸両用の城 ⇒ 織田信長の「湖の城郭網」【安土城・坂本城・長浜城・大溝城】
- ・元亀 3 年(1572)の築城工事 ⇒ 京都吉田神社の神官吉田兼見の普請見舞「明十於坂本而普請也」(『兼見卿記』 閏正月 6 日条)
- ・同年 12 月 24 日 ⇒ 「城中天主作事以下悉被見也。驚目了。」(『兼見卿記』)

◆坂本城の構造

- ・「明智は(中略)大湖のほとりにある坂本と呼ばれる地に邸宅と城塞を築いたが、それは日本人にとって豪壮華麗なもので、信長が安土山に建てたものにつぎ、この明智の城ほど有名なものは天下にないほどであった」(ルイス・フロイス『日本史』)
- ・日本最初の天主 ⇒ 「城中天主」(元亀 3 年→安土築城の 4 年前)、「天主之下立小座敷」
「於小天主有茶湯」(『兼見卿記』 天正 10 年(1582) 正月 20 日)
- 複合式(大天主+小天主)もしくは連結式(大天主+渡櫓+小天主)形式の天主
- ・安土城に先行する瓦葺建物の存在 ⇒ 坂本城(元亀 2~3 年)と山城勝龍寺城(元亀 2 年改修)で同範の軒先丸瓦が採集されている。
- ・石垣の存在 ⇒ 琵琶湖を用害として取り組む場合は、崩れない普請[石垣]が必要
- ・石垣、瓦、礎石建物という 3 つの要素を兼ね備える城 ⇒ 織豊系城郭としての坂本城
- ・琵琶湖と直結する堀 ⇒ 「御座船ヲ城ノ内ヨリ乗り候テ」(『天王寺屋茶会記』)
- ・石垣、瓦、礎石建物 ⇒ 信長による工人の貸与【安土築城の試作品】

◆その後の坂本城

- ・「坂本之城、天主放火云々」(『兼見卿記』 天正 10 年 6 月 15 日)
- ・清洲会議の結果 ⇒ 丹羽長秀の城となる【新たな坂本城の築城】
- ・その後杉原家次、浅野長吉が城主となる

◆発掘された坂本城

- ・下層(明智時代) ⇒ 礎石建物、掘立柱建物、石組溝、石組井戸
- ・上層(丹羽～浅野時代) ⇒ 石垣遺構、石組水路
- ・湖底に残された石垣 ⇒ 基底部に胴木を据える工法【安土城大手、勝龍寺城に類似】

◆おわりに

- ・坂本城から大津城へ ⇒ 首都大坂城の完成【陸路の変化：山中越から逢坂越へ】
- ・大津城から膳所城へ ⇒ 長等山からの砲撃で露呈した大津城の弱点
- ・戦国時代の坂本は琵琶湖の要

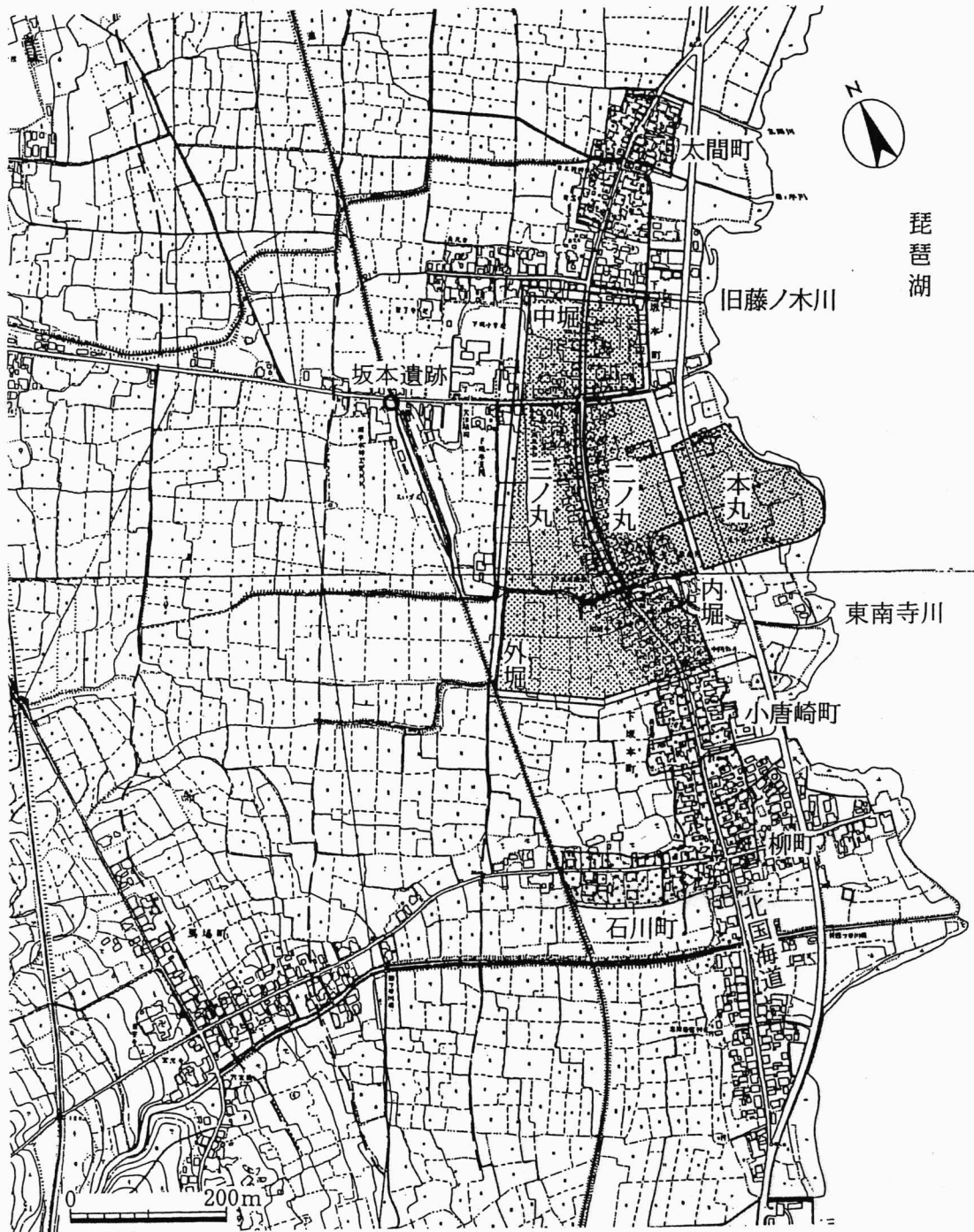


図1 坂本城縄張復元図(大津市教育委員会 2008『坂本城跡発掘調査報告書』)